

「聴かせてよ、
きみの歌」

○ 梗概

中学時代にいじめに合い、人前で歌うことが出来なくなった元宮ひまり（17）は、誰にも内緒で好きな歌手の曲を歌い、YouTubeにその動画を上げている。動画にはそこそこファンも付き、ネットが自分の唯一の居場所となっていたひまりだったが、クラスメイトの水瀬一花（17）に動画を投稿していることがバレてしまう。クラスで人気者の一花は学校でも歌うようにひまりに促すが、ひまりはそれを拒否し、投稿した動画を非公開にしてしまう。クラス中に動画の事を広められることを危惧したひまりだったが、一花は誰にも言わず、ひまりのファンであることを打ち明け、2人は仲良くなる。

ネットだけでなく現実でも自信をもって振舞えるようになりたいと思うひまりに、一花は顔が見えないからという理由でお昼の放送で歌を披露してみたらどうかと提案する。ひまりはその提案に乗り、歌の練習を行う。い

よいよ放送部での打ち合わせが行われる日、教室でクラスメイトが偶然ひまりの動画を見ているところに遭遇してしまい、中学時代のトラウマが蘇ったひまりは体調を崩してしまふ。お昼の放送での歌の披露は中止となり、ひまりは自分を責めてしまふ。

ひまりは周りの目を必要以上に気にしすぎていること、自分がどうしたいのかを大事にしなければならぬことが気が付き、周りの人達の優しさを見落とし、自分のことばかり考えていたと反省する。

一方一花も、中学時代いじめを経験しており、ひまりに自分を重ね合わせていたことを告げる。

ひまりは一花と透を誘い、誰も見ていない中、3人で演奏会を行い、今まで通り動画の投稿も続けながら現実でも少しずつ居場所を見つけていくのであった。

○ 登場人物

元宮 ひまり (15) (17) 高校生

水瀬 一花 (15) (17) 高校生

松田 透 (17) 高校生

田中 緑 (34) 白浜高校音楽教師

水瀬 春花 (45) 一花の母

智代 (17) 高校生 一花の友人

夕子 (17) 高校生 一花の友人

桐井 (17) 高校生 一花の同級生

北林 (17) 高校生 一花の同級生

生徒 A、E

野球部員

○パソコン画面

YouTube が表示されている。

動画の説明欄には「デイドリーム／

HIMA／歌ってみた」「3567回視聴」

「25件のコメント」「チャンネル登

録数589人」投稿者「HIMA」の記載。

動画が再生され、目元が隠れるお面を

付けた元宮ひまり（17）が映る。

ひまり「えーみなさん、こんにちは。HIMAで

す。いつもご視聴ありがとうございます。

えっと、今日はですね、デイドリームを歌

いたいと思います。」

拍手の効果音。

ひまり「そうだ、皆さんこの間の陸さんの配

信見ました？ 早く歌いなよって感じです

が感想だけ言わせてください！ この間の

配信のデイドリーム、ジャズアレンジで沸

きませんでした？ ファンへのプレゼント

ですよ！ 本当に陸さんのオタクしてて

よかったなって思いました！」

コメント欄、「HIMAちゃん今日もオタク全開w」「素敵な声ですね。癒されました」「繊細な歌声が心地よい」等、優しめのコメント。

ひまり、微笑んで、

ひまり「では聞いてください、デイドリーム」

○白浜高校・音楽室（昼）

ざわついている教室。

黒板には「歌のテスト」の文字。

グランドピアノに田中緑（34）が座り、生徒一人がピアノの横に立って緑の弾くピアノに合わせて歌っている。

曲は「怪獣のバラード」。

ひまり、俯いて座っている。

緑、演奏を止める。

緑「はい終わり。次は……元宮さんね」

ひまり「……」

緑「元宮さん？ 元宮ひまりさーん」

ひまり、嫌そうに顔を上げる。

ひまり「はい……」

ひまり、自信なさげに立ち上がり、ピアノの横に立つ。

緑、曲を弾き始める。

ひまり、歌い始めるが小声のため全く聞こえない。

緑、ピアノを弾きながら、

緑「元宮さん、もう少し声、大きく」

ひまり、そのまま小声で歌い続ける。

緑、演奏を止め、評価を手元のノートに記入する。

緑「はい、終わり。次、水瀬さん」

ひまり「（小声で）ありがとうございました」

ひまり、席に戻ろうとするが、水瀬一

花（１７）とぶつかり、持っていた教科書を落とす。

一花「！ ごめん」

一花、教科書を拾い、ひまりに渡す。

一花「大丈夫？ 怪我してない？」

一花、ひまりを見つめる。

ひまり「ごめん、大丈夫」

ひまり、教科書を受け取って席に戻る。

隣の席の松田透（17）、ひまりに向

かって、

透「お疲れ。緊張した？」

ひまり、肩を落とす。

ひまり「うん……松ちゃんは緊張しないよね、

コツとかあるの」

透「俺は放送部で人前で話すの慣れてるから

なあ」

ひまり「すごいなあ」

緑、ピアノを弾き始める。

ひまり、ぼーっと演奏を聴く。

一花「（音程が外れた大きな声で）まっかー

ーな、太陽を」

ひまり「!？」

生徒達、皆驚いてピアノの方を見る。

一花、気にせず歌い続ける。

○同・廊下

ひまり・透、並んで歩いている。

一花、ひまり達の前を友人に囲まれながら楽しそうに歩いている。

一花の背中を眺めるひまり・透。

透「いやーびっくりした」

ひまり「うん……」

透「水瀬さん、めっちゃ可愛くて優等生でクラスの人気者なのに」

ひまり「まさかあんなに」

透「ドへたくそ音痴だとは」

ひまり、慌ててシーのポーズをして、

ひまり「松ちゃん！」

透「なんだよ、お前も同じこと思ってただろ」
ひまり「いや、そうだけど！」

透「（顔が緩んで）でもさくそのギャップに
ときめく人は多そう。ギャップ萌。人気者
は得だな」

ひまり「（げんなり顔で）……」

透「元宮もギャップ萌え目指せば。実は裏で
魔法少女でしたとか」

ひまり「ありえないって」

透「でもそういうの憧れない？」

ひまり「……表で堂々と活躍できるほうがいいよ」

いよ

緑の声「元宮さん」

ひまり・透、振り向く。

緑が立っている。

緑「今日、放課後再テスト。4時に音楽室」

緑、ニヤリと笑う。

ひまり「（嫌そうな顔をして）はい……」

○同・校舎全景（夕）

帰宅する生徒達。

校庭には部活動をする生徒達。

○同・廊下

ひまり、音楽室の前で立ち止まり、ス

マホを見ている。

スマホの画面は YouTube。

「HIMAちゃん動画待ってたよ☆」

「今回も楽しみ♪」等、HIMAへの賞賛
コメントが表示されている。

ひまり、安堵した表情でコメントにい
いねを付けてスマホをしまい、深呼吸
をしてドアを開ける。

○同・音楽室

教室の真ん中の席に一花が座っている。

ひまり、少し驚く。

一花、ドアを開けたひまりに気が付き、

一花「元宮さん」

と、ひまりに手を振る。

一花「元宮さんも再テスト？」

ひまり「うん」

一花「一緒だ、面倒だね。がんばろ」

一花、笑う。

ひまり、つられて苦笑いして席に座る。

× × ×

4時のチャイムが鳴る。

一花、スマホをいじる手を止め、顔を

上げる。

一花「元宮さん、さ」

ひまり、顔を上げる。

ひまり「？」

一花「ユーチューバーやってない？」

ひまり「え」

一花「宇田川陸の曲歌って投稿してるよね、

HIMAって名前で」

一花、スマホをひまりに向ける。

画面にひまりが投稿した動画の一覧。

ひまり「！？」

一花「歌上手いんだね」

ひまり「（首を振って）私じゃない」

一花、スマホの画面とひまりを見比べ

る。

一花「体型と声そっくりだよ」

ひまり「他人の空似じゃない？」

一花「名前もまんまだし。ひまりちゃん」

ひまり「世の中には自分に似てる人が3人は

いるって言うし」

一花、スマホの画面を指さす。

一花「この後ろにかかっている制服、見切れてるけどうちの高校のだよね」

ひまり「えっ？ どこ！？」

一花「（ひまりにスマホを近づけて）ここ。危ないから気をつけたほうがいいよ」

ひまり「うわ、本当だ、危な……」

ひまり、ハツとして一花の顔を見る。

ひまり「（言葉が出ず）……！ ……！」

ひまり、頭を抱える。

一花、笑って、

一花「やっぱり！ うわ〜！ すごい！ 同じクラスになった時からもしかしてって思ってたんだよね」

ひまり「再生数少ない弱小ユーチューバーなのはどうして……」

一花「おすすめ欄に出てきたからなんとなく再生したんだ」

ひまり「そんな偶然ある？」

一花「（スルーして）元宮さん本当に歌上手

いね。学校では歌ってないの？ バンドとか、合唱部とか」

ひまり「歌わないよ……」

一花、ひまりの近くの席に座り直す。

ひまり、少し距離を取る。

一花「勿体ない！ 学校でも歌えばいいのに。今年の文化祭のステージとか出てみなよ！ 私応援する！ クラスのみんなもさ、応援しに見に来てくれるよ、それでさ」

ひまり「……」

ひまり、俯く。

一花「？ 元宮さん？」

一花、ひまりの顔を覗く。

ひまり「（泣きそうな顔で）できないの……」

一花「……！」

○同・廊下（夕）

緑、音楽室に入ろうとする。

教室から飛び出てきたひまり、緑とぶつかりそうになる。

緑「！ 元宮さん」

ひまり「先生、具合が悪いので帰ります」

緑「大丈夫？ 一人で帰れる？ 顔真っ青」

ひまり「はい、テストはまた今度受けさせて下さい。すみません」

ひまり、立ち去る。

○道（夕）

ひまり、道端で立ち止まり、涙を拭う。

スマホを取り出し、YouTubeを開いて投稿した動画を全て非表示にする。

○白浜高校・教室（朝）

朝のホームルーム。

透、教壇に立っている。

透「えー我が放送部は残念なことにお昼の放送のネタが尽きてしまいました、この度皆さん生徒からネタを募りたいと思います」

教室、ざわめく。

ひまり、ぼんやり透を見つめている。

透「弾き語りでもマニアックな知識披露でも

何でもゲストとしてお呼びいたします」

ひまり、一花に視線を向ける。

一花、楽しそうに透の話を聞いている。

生徒A「（挙手して）はい！ 先生の秘密暴

露とかどうですか」

透「こら！ 人が傷ついたりする内容はダメ
です」

生徒A「ええ〜じゃあ水瀬、楽器演奏しろよ。

吹部の次期部長だし」

一花「いやどんなフリ」

生徒達、笑う。

透「参加したい人は放送部の人に声をかけてく
ださい、よろしくお願いします。以上！」

ひまり「……」

ひまり、机に顔を伏せて寝る。

○同・中庭（昼）

体育着を着た生徒達が校庭に移動して
いる。

ひまり、同じく移動している。

透、ひまりの背後から話しかける。

透「よっ元宮」

ひまり「松ちゃん」

透「あれ、目腫れてない？」

ひまり「腫れてないよ」

透「虫にでも刺された？」

ひまり、目を擦る。

透「なく元宮」

ひまり「（目を擦りながら）何？」

透「朝言ってた放送部のネタ。なんかない？」

ひまり「クイズ大会でもやったら？」

透「毎日クイズ出すわけにもいかないだろ？」

募集かけたけど集まる気がしないんだよな

あ。元宮歌上手いんだし、一曲歌ってみた

ら

ひまり「餅は餅屋。合唱部に頼んだほうがいい

いよ

ひまり、少し早歩きになる。

透「ちえ、久々に元宮の歌聞きたかったのに」

ひまり「……」

ひまり、振り返らず歩く。

○同・校庭

体育の授業中。

ひまり、ハードルを運んでいる。

一花、ハードル走をしている。

一度もハードルを倒さずゴールし、ゴ

ール付近にいた友人達と談笑。

ひまり、それを眺める。

一花、ひまりに気が付く。

一花「元宮さん！」

ひまり「！」

一花、ひまりに駆け寄る。

一花「おはよう。ちょっといい？」

ひまり「……」

ひまり、頷く。

○同・体育館裏

一花「昨日はごめんなさい！」

一花、深々とお辞儀をする。

一花「興味本位で無神経なこと言ったり聞いたりして……本当にごめんなさい！ 動画、非公開になったの私のせいだよね」

ひまり、面食らう。

ひまり「水瀬さん、顔上げて」

一花「ダメダメダメ！ 何なら土下座もする」

ひまり「私がやらせてるみたいになってるから！ ここ体育館裏だし、カツアゲ的な」

一花「でも」

ひまり「……言ったの？」

一花「？」

一花、顔を上げる。

ひまり「クラスの人達には、その、私が動画作ってるって」

一花「言わないし、言っていないよ」

ひまり、ホッとする。

一花「好きなんだ、元宮さんの動画。2年前から」

ひまり「待って……そんなに昔から？ 中学

からってこと？」

一花「うん、ファン。元宮さんって気が付いたのは最近だけだ」

ひまり「……」

一花「他の動画は歌だけだけど、元宮さんの動画は歌う前にラジオみたいに話すじゃん。あれ好き」

ひまり、恥ずかしさのあまり手で顔を覆う。

ひまり「……引かない？ 学校では大人しくしてるのにネット上ではイキッて」

一花「なんで？ 引かないよ」

ひまり、覆っていた手を外す。

一花「私楽器は出来るけど歌下手なんだもん。元宮さんみたいに宇田川陸の曲歌えたら楽しいよね、絶対」

ひまり「……」

一花「？」

ひまり「（早口気味に）どの曲が気になるとかある？ 私が投稿した動画の中でもいい

んだけど、本家の曲の中でよかったなって
やつとか」

一花「え、え」

ひまり「あ」

ひまり、口を押える。

ひまり「ごめん、私、リアルでこんな話する
の初めてで……！」

一花「元宮さん、テンションがユーチューバ
ーだったよ」

一花、笑う。

一花「よかったら歌い方も教えてよ。緑先生、
私の歌聞いて絶望してたから」

○同・音楽室

ひまり、ピアノを鳴らす。

一花、発声する。

ひまり「そうそう」

ひまり、違う音を鳴らす。

一花、その音に合わせて発声する。

ひまり「ひとつひとつの音を聞いて、それに

合わせて声を出して」

一花、発声しながら頷く。

ひまり、頷く。

× × ×

一花、のど飴を取り出し、食べる。

一花「喉がガラガラ」

一花、のど飴を一つひまりに渡す。

ひまり「ありがとう」

ひまり、大事そうに受け取る。

ひまり「喉がガラガラってことは喉を閉めた

まま歌ってるんだね、開く練習もしようか」

一花「ありがとう」

一花、微笑む。

ひまり、つられて微笑む。

ひまり「あの、水瀬さん、今日放課後暇？」

一花「暇だよ」

ひまり「！一緒にアイス食べに行かない？」

智代・夕子、廊下から教室を覗いて、

智代「一花―？何やってんの」

一花「ともちん、ゆっこ！歌の練習！」

一花、智代と夕子に駆け寄る。

智子「えらい」

夕子「一花ヤバいくらい音痴だからね」

一花「もう少しオブラートに包んでよ」

智代、ひまりに気が付き、

智代「元宮さんも一緒？ 珍しいね」

ひまり、軽く会釈する。

一花「教えてもらってるの」

智代「へえ、歌得意なんだ」

ひまり「……」

ひまり、手に持っていた楽譜を握りしめる。

夕子「ね、今日サーティワン寄らない？」

智代「ゆっこが割引チケット持ってるって」

ひまり、気まずそうにする。

一花「うーん、今日はいいや、ごめんね」

夕子「？ そう」

一花「先約があるんだ。また今度ね」

一花、ひまりを見て微笑む。

○道（夕）

一花・ひまり、アイスを食べながら並んで歩いている。

一花「今日はありがとう」

ひまり「ううん、私も再テストあるし」

一花「なんとなく歌い方わかってきたよ、来

週には歌手デビューできるかも」

ひまり「武道館ライブも夢じゃないね」

一花、怪獣のバラードを口ずさむ。

ひまり、つられて小声で一緒に歌いだす。

数フレーズ歌ったところで、

ひまり「待って、アイス溶けちゃう」

一花「あ、ほんとだ」

一花、笑いながらアイスを一口食べる。

一花「元宮さんはさ、なんでユーチューバーになろうと思ったの？」

ひまり「え……」

一花「歌手になりたいとか、好きなアーティスト広めたいからとか、何かきっかけがあ

ったのかなって」

ひまり、少し考え込む。

ひまり「面白い話じゃないんだけど……中学の時、合唱コンクールがあってね、なんていうか、ちよつとね、目立っちゃったの。

歌で」

○白浜中学校・廊下（回想・2年前）

ひまり（15）、廊下を歩いている。

生徒数人がひまりを見ながら内緒話を
して笑っている。

ひまり、それを見てその場を立ち去る。

ひまり（声）「そうしたら悪口とか言われる
ようになって。人前で歌えなくなっちゃっ
て、そのうち学校に行けなくなってる」

○道（夕）

ひまり「その時陸さんの動画に出会ったんだ。

合唱コンクールの課題曲が怪獣のバラード
だったから、なんとなく検索したら出てき

て」

一花「……」

ひまり「僕も中学校の時歌いましたー！って歌ってて、別にそれだけの動画だったんだけど私もこの人みたいに歌いたい！って思ってたYouTube 始めたの」

ひまり、自嘲気味に笑う。

ひまり「なんでだろうね、会ったこともないのに元気が出てさ、明日も生きようって思ったんだ」

一花「……元宮さんのこと、救ってくれたんだ」

ひまり、頷く。

一花「素敵。今じゃ元宮さんの動画にもたくさんコメントついて、楽しそうだもんね」

ひまり「うん……」

ひまり、少し俯いて、

ひまり「（小声で）現実より……」

一花「ん？」

ひまり「（ハツとして）ううん、なんでもな

い」

ひまり、首を振る。

ひまり「水瀬さんは、なんで私の動画、そんなに見てくれてたの？ トークも歌も、上手い人は他にも沢山いるのに」

一花「ええ？ うーん……」

一花、考える。

一花「元宮さんと同じ。私も元気づけられたんだ、元宮さんの動画に」

ひまり「？」

一花、曲がり角を指さして、

一花「あ、私こっち」

ひまり「駅？ 電車通学なんだ」

一花「うん、通学時間一時間半」

ひまり「遠！」

一花「（笑って）バカみたいでしょ。じゃあ

ね、また明日！」

ひまり「……うん、バイバイ」

ひまり、手を振る。

○元宮家・ひまりの部屋（夜）

お面を付けたひまり、カメラの録画ボタンを押して録画を始める。

少し緊張気味。

ひまり「みなさん、こんにちは。いつもご視聴ありがとうございます。今日は、ライブ配信でグラビティを歌いたいと思います」

ひまり、CDをカメラに向ける。

ひまり「この曲は人と人が初めて触れ合った時の気持ちを表現した曲だと陸さんが言っていました。私、初めてリアルでユーチューバーやってるって話をクラスの子にすることができて……嬉しくて。今の気分はこの曲がぴったりだなと思ったので歌います。その子、この動画も見ているかもしれないんでちょっと恥ずかしいんですけど（苦笑い）聞いてください。グラビティ」

曲の前奏が流れる。

コメント欄、「拍手！」「HIMAちゃんよかったね！」「歌楽しみ！」「お話

しした子も見ているといいですね」の
文字。

○水瀬家・リビング（夜）

一花、ソファに腰掛け、スマホでひま
りの動画を楽しそうに見ている。

水瀬春花（45）、キッチンから一花
に向かって、

春花「一花、優太迎えに行ってくれろ？」

一花「待って！ 今いいところなの」

春花「塾終わっちゃう」

一花「んんゝわかったよ」

一花、スマホをしまい、立ち上がる。

春花「気を付けて」

一花「うん」

一花、リビングを出る。

○道（夜）

一花、道を歩いている。

ジャージを着た桐井（17）・北林

(17) とすれ違う。

桐井、一花に気が付いて振り向く。

桐井「水瀬？」

一花、足を止める。

一花「……」

一花、振り向こうとするが、気が付かないふりをして歩き始める。

○白浜高校・音楽室（昼）

緑、グランドピアノに座り、手元のノートに評価を記入している。

ひまり、横に立っている。

緑「うん、声も綺麗、音程も安定してる」

ひまり「ありがとうございます」

緑「もうちょっと授業中も大きな声で歌える

といいんだけどな」

ひまり「すみません、緊張しちゃって」

緑「人の目が気になる？」

ひまり、頷く。

緑「そうかあ、そうよね、怖いよね」

ひまり「先生も怖いって思うことありますか」

緑「しょっちゅうあるわよ。緊張してお腹も壊すことあるし」

ひまり「お腹も……」

緑「教師としては授業中も大きな声で歌ってもらいたいけど、音楽好きとしては辛い思いをするより楽しんで歌ってもらいたいなって思うから、無理はしないでね」

ひまり「……」

○同・廊下

一花、音楽室の前にやってくる。

ひまりの声「先生、私、克服したいんです」

一花、ひまりの声に気が付き、音楽室を覗く。

ひまり「今の私のことを認めてくれる居場所もあるけど、学校や普段の生活の中だと何もできない、オドオドした自分ているのが嫌なんです。恥ずかしくて」

一花「（ひまりを見つめて）……」

× × ×

ひまり、音楽室から出てくる。

廊下に立っている一花に気が付く。

ひまり「！ 水瀬さん」

一花「再テスト？ どうだった？」

ひまり「授業の時よりはマシかな……水瀬さんはどうしたの？」

一花「部活の事で緑先生に話があって」

ひまり「そっか」

一花「うん」

ひまり「じゃあ」

ひまり、立ち去ろうとする。

一花「元宮さん、放送部のゲスト、出てみたら？」

ひまり「え」

一花「放送部なら顔も出ないしさ、プレッシャーも軽くなって人前に出ても緊張しない一歩に繋がるかも」

ひまり「話、聞いてた？」

一花、気まずそうに頷く。

一花「聞くつもりはなかったんだけど」

ひまり「……」

一花「苦手なことを克服したいなら、私、協力したいなって思ってる」

○同・教室

透、黒板を黒板消しで拭いている。

ひまり、やってきて、

ひまり「松ちゃん、日誌。今日まだ書いてな

いよね」

透「おう、ありがとう」

ひまり、日誌を渡す。

透、日誌を受け取り、脇に挟んで黒板拭きを再開する。

ひまり「……」

透「……」

ひまり「あの、松ちゃん、私」

透「？」

ひまり「お昼の放送に……出てみようかなって……歌で」

透「え、マジ？」

ひまり、頷く。

透「元宮、人前で歌えるの？」

ひまり「……頑張りたい」

透、ニツと笑って、

透「中学ぶりじゃん、ギャップ萌え」

○同・中庭（夕）

放課後。人気のない中庭。

ひまり、発声練習をしている。

ひまり「あー」

一花、ひまりを横で眺めている。

一花「いつも YouTube で見ている光景が目の前」

ひまり「（照れて）そんな大げさな」

一花「すごいなく楽しみだな」

ひまり「水瀬さんが応援してくれるからだよ。」

一人じゃ勇気なかったし」

一花「ね、名前、一花でいいよ。私もひまりちゃんって呼んでいい？」

ひまり「！ うん」

× × ×

ひまり・一花、歩いている。

一花「そういえば昨日宇田川陸テレビ出てたね」

ひまり「！ ウソ！ 見てくれたの！ 新曲

どうだった!？」

一花「（笑って）食いつきがすごい」

ひまりの足元に野球のボールが転がってくる。

野球部員、遠くの方で手を振りながら、

野球部員「水瀬ー！ ボール投げてー」

一花「え、ああ、うん。おっけー」

一花、ボールを拾い、野球部員に向かって投げる。

一花「（ボールを見ながら）全然飛ばない」

ひまり「……一花ちゃんは誰とでもフレンド

リーですごいね」

一花「そう?」

ひまり「私、上手く話せないこと多いから」

一花「ひまりちゃん……」

一花、一息おいて。

一花「これからいくらでも話せるし仲良くなれるって。高校生活はまだ半分あるんだから」

ひまり「！」

一花「そのための一歩でしょ、歌」

ひまり、頷く。

○元宮家・ひまりの部屋（夜）

ひまり、パソコンで作業をしている。

作業を終えて、席を立つ。

パソコンの画面には YouTube が表示されている。

「EVA」の動画の説明欄に「更新少しお休みします」の文字。

○白浜高校・屋上（夕）

ひまり、歌っている。

一花、指揮をしている。

○同・教室（昼）

授業中。

ひまり、こっそりスマホで「緊張しない方法」と検索している。

○ファミレス

ひまり・一花、向かい合って座っている。

イヤホンを半分こして音楽を聴いて笑いあう。

○白浜高校・廊下（夕）

ひまり・一花・透、窓の近くに立っている。

透、ひまりにプリントを渡す。

透「お昼の放送は30分。ゲスト出演は長くてもそのうち15分」

ひまり「わかった」

一花、ひまりと透の顔を交互に見て、

一花「二人、よく一緒にいるけど仲いいの？」

ひまり「幼馴染」

透「そ。小学校からの腐れ縁」

一花「へえ」

透「元宮友達いないから俺が話し相手になつてんの」

ひまり、肘で透を小突く。

透「そういうお前らこそ。そんな仲良かったっけ？」

一花「（にやけて）まあ、ちよつとね」

透「なんだよ」

ひまり「曲は怪獣のバラードにしようと思う

の」

透「合唱曲？ 流行りの曲にしないの」

ひまり「うん」

一花「大事な曲だもんね」

透「ふーん……この後、放送室に集合して打ち合わせな」

ひまり・一花「了解」

○ 同・教室

ひまり・一花・透、教室に入ってくる。
教室の隅で生徒が数人集まってスマホ
で動画を見ている。

ひまり、生徒達の見ているスマホが気
になる。

一花、生徒達に駆け寄って、

一花「みんな集まって何見てるの？」

生徒B「動画」

生徒C「この子歌上手くてさ、参考にしてる
の」

生徒C、一花にスマホを見せる。

見せられたスマホにひまりの動画が流
れている。

一花「……！！」

ひまり、固まる。

生徒B「軽音楽部で今度宇田川陸のカバーし
ようと思ってるんだ」

生徒B、ひまりを見て、

生徒B「なんか雰囲気元宮さんに似てない？」

生徒C「（ひま리를見て）ほんとだ」

透「何、元宮、動画作ってんの」

ひまり「えっと……」

ひまり、生徒達の視線を感じ、徐々に呼吸が荒くなる。

一花「ひまりちゃん？」

○白浜中学校・廊下（回想・2年前）

生徒数人がひま리를見ながら笑っている。

生徒D「（ひまりに向かって）歌手気取り」

○白浜高校・教室

ひまり、生徒B・Cが中学時代の同級生に被って見える。

ひまり「……！」

透「元宮？」

ひまり「あ、ち、ちが、違うの……」

ひまり、過呼吸になりその場にうずくまる。

○同・保健室

一花、息を切らして部屋に入ってくる。

透、ソファに座っている。

一花「ひまりちゃんは」

透「貧血だって。寝てる」

透、ベットの方向に向かって目配せする。

一花、区分けのカーテンの前に立つ。

一花「ひまりちゃん、大丈夫？」

ひまり「……」

一花「鞆持ってきたよ。お大事にね」

一花、カーテンから離れようとする。

ひまりの声「……ありがとう」

一花「！」

ひまりの声「ごめんね、水瀬さん、せっかく

応援してくれたのに。私やっぱりダメみた

い。人の目が怖いし、勇気もない」

一花、カーテンを開けようとするが、

手を止める。

ひまり「それなのに誰かに私の歌を聞いてほ

しいって気持ちもあって、ネットでは好き
勝手やってる」

一花「……」

ひまり「……」

一花「……誰かに自分の事を知ってもらいた
いって気持ちはみんな持ってるよ」

ひまり「……」

一花「ひまりちゃんは、人を怖がりすぎだよ」

ひまり「……！」

一花、ハツとして、

一花「ごめん。私、帰るね。ゆっくり休んで」

一花、逃げるように保健室から出てい
く。

透、ソファから立ち上がり、バッグを
持って、区分けのカーテンの前に立つ。

透「元宮、俺も帰るよ」

ひまり「……」

透「元宮さ、動画作ってたんだよな、歌の」

ひまりの声「……うん」

透「全然知らなかったよ、幼馴染なのにさ。」

教えてくれてもよかったじゃん」

ひまり「……ごめん」

透「いや、責めたいわけじゃなくてさ、もうちょっと信用して頼ってくれていいんだよってことが言いたくて。俺は中学の奴らとは違うから」

ひまり「（ハツとして）松ちゃん……」

透「（照れくさそうに）じゃあ帰るな！ ち

やんと寝ろよ！ 風呂入って歯も磨けよ！」

透、保健室から出ていく。

ひまり「……」

○元宮家・前（夕）

怠そうに帰宅してきたひまり、家に入ろうとするがスマホが鳴り、画面を見る。

スマホの画面に YouTube からの通知メッセージが表示される。「HIMA」へ、

「最近動画上げてないけど元気かな」

「新作待ってます！」のコメント。

ひまり、それを見て急いで家に入る。

○同・ひまりの部屋

ひまり、部屋に入り、カメラを取り付け、録画の準備を始めるが、立ち眩みが起こり、座り込む。

ひまり「何やってんだ……」

ひまり、涙を流す。

○白浜高校・廊下（昼）

昼休み。

チャイムが鳴り、校内放送が流れる。

透の声「みなさん、こんにちは。6月5日水曜日、お昼の放送を始めます。今日のゲストはクイズ研究会の皆さんですー」

○同・階段

ひまり、階段を降りている。

緑、階段が上がってくる。

緑「元宮さん」

ひまり「先生」

緑「松田君から聞いたわよ！ お昼の放送で歌うんだって？」

ひまり「……（浮かない顔）」

緑「？」

ひまり「だめになっちゃったんです」

○同・音楽室

ひまり・緑、並んでピアノに寄りかかっている。

緑「そつかあ……」

ひまり「無謀なチャレンジでした」

緑「そんなに自分を責めなくてもいいじゃないの。ゆっくり克服していたり、自分の弱点を受け入れてみたり、道はいろいろあるんだから」

ひまり「責めたくもありません。私、克服もできなかつたし、優しくしてくれる人達のことも見えてなかつたんです。自分がどう思われてるかばかり気にして。情けなくて」

緑「……他の人の目じゃなくて、元宮さん自身はどうしたいのかってことに集中するといいのかもしれないね」

ひまり「私の？」

緑「元宮さんは誰という時が楽しい？ 何をしている時が自分らしくいられる？」

ひまり、自分のスカートを握りしめて、
ひまり「……私、私は——」

○同・廊下

透、放送室から出てくる。

目の前にひまりが立っている。

透「うお！」

ひまり「松ちゃん」

透「びっくりした、何」

ひまり「あの、お願いがあって……」

透「？」

ひまり、一息おいて。

ひまり「頼らせてくれませんか」

透「……」

透、吹き出して。

透「何で敬語」

○同・校門（夕）

放課後。

一花、帰宅しようとしている。

その近くで他校のバスケット部が遠征の為
集合している。

その中の一人、桐井が一花を見つけ、

横にいた北林に、

桐井「ねえ、あれもしかして」

北林「え？」

× × ×

ひまり、走りながら一花を探している。

遠方に一花を見つける。

ひまり「（大きな声で）一花ちゃん！」

一花、振り向いて。

一花「ひまりちゃん……」

ひまり、一花に駆け寄る。

ひまり「（息を切らしながら）話があって――」

」

一花「……」

桐井「水瀬？ やっぱり！ 水瀬じゃん」

桐井・北林、一花に近づく。

一花「！ 桐井さん……？」

ひまり「？」

桐井「中学ぶり」

一花「なんでうちの学校に……」

桐井「部活の遠征。水瀬、高校ここなんだ」

北林「水瀬こんなド田舎まで通ってるの？

ヤバ」

桐井「どんだけ地元嫌いなの」

北林「地元に住場所なかったもんね」

桐井「ここではお友達出来た？」

一花「……」

ひまり「……」

ひまり、一花の手を掴む。

一花「！」

ひまり「（一花に向かって）行こ」

ひまり、歩き始める。

桐井・北林、一花の背中に向かって、

桐井「なにあれ。無視すんなし」

北林「相変わらずガリ勉陰キヤ」

ひまり、歩く速度を速める。

ひまり「……」

一花「……」

○同・中庭

一花「恥ずかしいところ見られちゃったね」

一花、笑う。

ひまり、足を止めて、掴んだ手を放す。

ひまり「……」

一花「私ね、中学校の時友達もいなくて、人前に出るのが苦手だったんだ。だから、ひまりちゃんに自分を重ねて……学校で歌えるようになればいいなって勝手に思ったた。ごめん。こないだは、酷いこと言った」

ひまり、首を振る。

ひまり「一花ちゃん」

一花「？」

ひまり「私と一緒に歌、歌ってくれない？」

一花「一緒に？」

ひまり「うん」

一花「何で」

ひまり「私、いつも自分がこう思われたらどうしようってことで頭がいっぱい、自分がどうしたいとか、私の周りにいてくれる人達の事とか、全然考えてなかった」

一花「……」

ひまり「私の動画、見てくれてありがとう。」

一緒にアイス食べながら歌ってくれたり、人前で歌が歌えるように応援してくれたり、ありがとう。これからも、一緒に歌を歌ったり、アイス食べてほしい」

一花「……」

一花、笑って。

一花「ひまりちゃん、それ、愛の告白みたいだよ」

○同・放送室

ひまり・一花・透が座っている。

ひまり「今日は、お越しいただき、ありがとうございます」

一花「元宮ひまりと水瀬一花でお届けいたします」

ひまり「なんと完全オフレコです」

ひまり・一花、笑い合う。

ひまり「では、歌います」

ひまり、挙手。

一花「歌います」

一花、挙手。

透「撮ります」

透、スマホを二人に向ける。

一花、頷く。

ひまり、ピアノを弾く。

曲は「怪獣のバラード」。

ひまり・一花、歌う。

○元宮家・ひまりの部屋（夜）

ひまり、椅子に座る。

机の上にはひまり・透・一花の3人で撮った写真が置いてあり、それを見たひまり、微笑む。

ひまり、お面をつけて、深呼吸をし、机の上のカメラの録画ボタンを押す。

ひまり「皆さん、いつも優しいコメントありがとうございます。お久しぶりですー」

○白浜高校・校門（朝）

ひまり、登校している。

一花、後ろから駆け寄って、

一花「ひまりちゃん、おはよ」

ひまり「おはよう」

一花「昨日の動画見たよ、よかった」

ひまり「恥ずかしいな」

一花「今回も元気出た」

ひまり「ありがと」

透、校舎の窓から顔を出す。

透「水瀬、元宮！」

ひまり「松ちゃん！ おはよ」

一花「部活―？」

ひまり・一花、手を振る。

透「そ。今日のお昼の放送はクイズ大会決勝

戦だから期待しといて」

ひまり「とうとう決勝戦だ」

一花「熱いね」

○同・昇降口

ひまり・一花、昇降口に入ってくる。

下駄箱で靴を履き替えていた智代・夕

子と鉢合わせて、

一花「ともちん、ゆっこ、おはよう」

智代・夕子「おはよ」

一花「今朝練ないのに早いね」

夕子「つい癖で起きちゃうんだよね」

一花「習慣ってやつか」

智代・夕子、ひまりに近づいて、

夕子「元宮さん」

智代「（小声で）あのさ、こないだ、放送室

で歌ってたのって元宮さん？」

ひまり「え」

一花「おお」

夕子「廊下に音漏れてたの。歌上手くない？」

智代「流石一花に教えるだけあるわ」

一花「おーい、一言多いぞ」

夕子「今度さ、うちらにも聞かせてよ」

ひまり、困惑しながら一花を見る。

一花、嬉しそうに笑い、ひまりに向か

ってピースする。

ひまり、笑う。

○伊都川中学校・昇降口（回想・2年前）

放課後。生徒達が帰宅している。

一花（15）、靴箱の前に立っている。

靴箱の中にはゴミが詰め込まれている。

一花、ゴミを取り出し、ゴミ箱に捨て、

靴を履いて外に出る。

○土手（夕）

一花、涙を流しながらスマホで動画を

見ている。

ひまりの声「みなさんこんにちは、今日は怪獣のバラードを歌いたいと思います」

○一花のスマホ画面

ひまり（15）が投稿した動画が流れている。

ひまり「この曲はですね、私が陸さんに出会った運命の曲です」

ひまり、えへへと笑う。

ひまり「陸さんがこの曲を歌った動画を見てそこからファンになりました。この曲って少し切ないですよ、強くて目立つ怪獣も、海を見て人を愛したって願うんですよ。」

ひまり、一息おいて。

ひまり「私、学校嫌いで。行きたくないな、行けなくなってると思う日が多いんですけど、陸さんの動画を見て頑張ろうって思うようになりました。私も、私の動画を見てくれる人が明日少しでも元気に過ごせるよ

うに応援できたらなって思ってます……え
っと、一緒にがんばりましょう！」

○土手（夕）

一花、動画を見ながら少し笑う。

ひまりの声「それでは聴いてください、怪獣
のバラード」

一花のスマホから怪獣のバラードの前
奏が流れる。

○タイトル「聴かせてよ、きみの歌」

へ終
▽